



～タイトル「玉燈」によせて～

「玉」は立派なものに磨きあげる、「燈」は教え、照らすを表し、「子どもへの愛育」と「情熱に満ち溢れる教師道」をイメージしています。また、「玉燈」は、郷土の先人 國友一貫斎の代表的発明品としても知られています。

背 中

長浜市教育委員会事務局
次長 北村 充生

子どもたちは、私たちが思っている以上に、教員のことをよく見ています。また、授業や保育からだけでなく、教員の言葉や接し方、行動などから多くのことを学んでいます。では、子どもたちの目に、今の私たちはどのように映っているのでしょうか。私自身のこれまでを振り返ると、子どもや保護者との関わりを通して、自分の至らなさに何度も気づかされ、教えられてきました。

「先生、この前約束したよね。」私が教員になって、初めて子どもたちから受けた厳しい一言です。慣れない教員生活で、心に余裕がない日々でした。そのような中で、軽い気持ちで学級全員の前で交わした約束を、私はすっかり忘れていました。教員にとって何気ない一言でも、子どもにとっては大切な約束になるのだと学びました。

「先生は重く受け止めておられないですよね。」友だち関係で悩む我が子のことで相談に来られた保護者の方からの一言です。早く解決したいという思いが先走り、保護者の方の思いを聞く姿勢に欠けていた私の様子から、しっかりと向き合ってもらえていないとお感じになったのだと思います。まずは思いをしっかりと受け止めることが何よりも大切だと気づきました。

「子どものことがわかっていないね。教員は足で稼ぎなさい。」先輩教員からいただいた言葉です。様々な状況にある子どもと向き合う中で、できるだけ家庭に足を運び、子どもの背景を知ろうとしました。そうして訪問を繰り返すうちに、学校で子どもが見せる姿には何かしらの理由があるのだということに気づきました。また、保護者の方と何気ない話を重ねる中で、少しずつお互いの思いを理解できるようになりました。そして、学校での子どもの姿だけで判断していた自分の未熟さに気づくことが何度もありました。

「あの時の先生の言葉で、しばらく落ち込んでいました。」同窓会で出会った卒業生からの一言です。算数

の問題が解けずに困っていた時に私からかけられた言葉ということでしたが、大変失礼ながら、具体的な言葉を聞いても、その場面すら思い出せませんでした。今ではよい思い出だと笑って話してくれましたが、教員の言動が子どもたちの中に深く刻まれることを改めて実感しました。

「先生は普段もそうしているのですね。」量販店で出会った子どもの言葉です。私の前で会計をしていた年配の方が、小銭を出すのに困っておられたので、お手伝いをしました。その様子を、そばにいた子どもが見ていたようです。子どもは、私が教員として振る舞っている時間だけを見ているのではないことを実感し、気の引き締まる思いがしました。

振り返ってみれば、これらはすべて、教員である私の言葉や姿勢が、子どもや保護者にどう届いていたのかを教えてくれた出来事でした。

「苦しい時は、私の背中を見て」と言って、当時サッカー女子日本代表のキャプテンを務めていた澤穂希さんは、強豪国との試合を前にチームメイトを勇気づけました。果たして、今の自分は胸を張って子どもたちに同じことが言えるのでしょうか。様々なことに悩みながらも、輝く将来へ向かって進む子どもたちに、堂々と背中を見せることができるのでしょうか。

子どもの前に立つということ。それは、胸を張れる背中であり続けることなのだと思います。

今の自分は、子どもたちに胸を張って背中を見せられるだろうか。その問いを、子どもたちの前に立つ私たち一人ひとりが、これからも自分自身に問いかけていきたいと思っています。



研究 研修室 より

長浜市主催で実施した夏季教職員研修は全部で31講座です。研修内容の一部と受講者の感想をご紹介します。



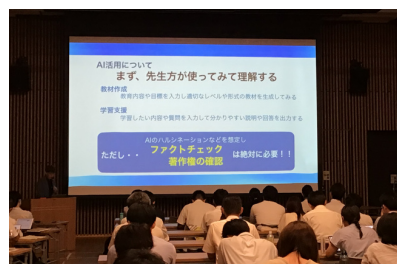
7月23日（木） iPad×生成AI研修

基礎編「AIはじめての一步 ～Geminiと作る授業案～」

応用編「Geminiを賢く使うテクニックとNotebookLM連携でスライド作成」

講師：尾崎 眞啓 氏（株式会社アイティクリップス）

午前の部では、アイデアを広げる「Gemini」と、資料を分析する「NotebookLM」を中心に、プロンプトの工夫やスライドの自動生成等基礎的な知識と使い方を学びました。午後の部では、これらを学校現場の様々な校務に生かす応用的な活用方法を扱い、明日の授業に役立つ実践的な技術を身につけました。また、生成AIを使うときに気をつけるべき情報の扱い方や安全面についても学びました。今回の研修は、これからの学校づくりに生成AIをどう生かすかを考える、実りある研修となりました。



受講者の感想より

【基礎編】

- ・生成AIを活用するためには、目的や条件を具体的に伝える的確なプロンプトがとても重要であることを学んだ。
- ・生成AIが提供してくれる情報は全てが正しいとは限らないということが最も印象に残った。嘘の情報を子どもたちに伝えてはいけないため、ファクトチェックを怠ってはいけないと感じた。

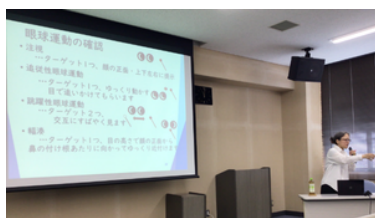
【応用編】

- ・生成AIが授業の効率化だけでなく、児童生徒の理解を深める「楽しい授業づくり」の強力なパートナーになることを実感いたしました。
- ・生成AIの解答をそのまま鵜呑みにするのではなく、内容の正確性や著作権、個人情報の取り扱いなどに十分配慮し、最終的には教員自身が判断することの重要性を感じました。

8月4日（火）特別支援教育研修

「視る力の整理・整頓の仕方」

講師：高橋 絵理子 氏（オプトメトリスト／公認心理師）



本研修では、見え方に課題がある子どもたちへの「学校でできるアセスメント」について教えていただきました。また、目で捉える「視機能」や、脳で情報を処理する「視感覚・視知覚・視覚認知」など、「見る」仕組みのどこに問題があるかによって、子どもたちが抱える具体的な困りごとが異なることを整理していただきました。その上で、それぞれの特性に合わせた具体的な支援方法や、視力・眼球運動について詳しく学びました。一見、同じようなつまづきに見えても、その背景にある原因は一人ひとり異なります。子どもの「困り感」を丁寧に把握し、それぞれに寄り添った支援や対応をしていく大切さを改めて学ぶ貴重な機会となりました。

受講者の感想より

- ・見る力と一言に言っても、原因や課題のポイントは多岐にわたるため、アセスメントは慎重に行わなければならないと感じました。児童の状況と可能性のある視覚的な課題について教えてくださったことから、児童をアセスメントする際の視点が1つ増えました。
- ・読むことについては、視覚関連の力、聴覚、音韻処理などさまざまな要素が関連して、初めて出力されることを知りました。子どもが感じている困難さを多角的な観点で分析し、支援の方法を考えていきたいと思います。

8月21日（金）小学校・中学校授業改善研修【悉皆研修】

「子どもを主語にした授業」の実現にむけて
ー「長浜スタイル2」をカリキュラム・マネジメントの視点から捉え直してー
講師：赤沢 早人 氏（奈良教育大学教授）

本研修では、「長浜スタイル2」に基づく授業づくりを、カリキュラム・マネジメントの視点から整理し、学校としてどのように授業改善を進めていくかを学びました。赤沢早人教授は、学校の教育活動は「子どもの実態をよく知り、必要な学びを行事や教科の枠をこえて組み合わせ、計画的に実施し、評価する」という一連の流れを繰り返し、継続的に改革・改善していくことが重要であると強調されました。また、授業改善の具体的な方向として、「めあて→見通し→自力解決→協働学習→再構築→まとめ・振り返り」という長浜スタイル2の学習プロセスを通し、問いを持ち、見通しを立て、粘り強く学び、仲間と協働できる学習者の育成をめざすことが示されました。今回の研修は、長浜スタイル2を核とした授業改善を学校全体で進めていくための大きな一歩となりました。



カリキュラム・マネジメントのダブル・ループ

受講者の感想より

- ・今回の研修では、日々の授業改善を一人一人の教師の努力で終わらせるのではなく、学校全体の教育目標の実現につなげていくことの大切さを改めて考える機会となった。
- ・目の前にいる子どもたちが、単に教科書をなぞるのではなく、「なぜだろう」と主体的に問いを抱いて学んでいける授業になっているか。そして、その姿を実現するために、今ある学校の教育活動から、何を選択し精選していくべきなのかを、カリキュラム・マネジメントの視点から問い直す重要性を改めて実感した。

8月27日（木）環境教育研修

「これからの時代を生きる子どもたちへ」

講師：渋沢 寿一 氏



本研修では、持続可能な社会のあり方について学びました。渋沢寿一氏からは、江戸時代の循環型の暮らしを例に、自然と共に生きる知恵や、人・自然・世代のつながりが生活を支えていたことが紹介されました。また、もし世界中の人々が現在の日本人と同じ生活をする、地球3個分の資源が必要になるという試算が示され、私たちの暮らしが地球に大きな負荷を与えている現状について考える機会となりました。さらに、SDGsの理念である「誰ひとり取り残さない」は、人だけでなく自然や未来の世代も含めて考えるべきであり、持続可能な社会を築く鍵は「循環」と「共感（人とのつながり）」にあると強調されました。子どもたちの未来を守るために、私たち自身の価値観や社会のあり方を見つめ直すことの重要性を改めて学ぶ研修となりました。

受講者の感想より

- ・「人生で重要なことは、勝つことではなく歩み続けること」という言葉が印象に残りました。物質的、経済的な豊かさだけを追求するのではなく、地域社会の中で「未来の社会」「幸福」「生きがい」を考えていくことの重要性を改めて考えさせられました。
- ・近江商人の「三方良し」にある「世間」には、未来の子孫まで含まれるという考え方に深く共感しました。脱炭素やSDGsを、自分たちと地球が共存するための行動として捉え、子どもたちにも伝えていきたいです。



保育研究会および第2回研究協議会

講師：森 佐江子 氏（長浜市立長浜図書館長）

日時：7月23日（木） 場所：長浜市立北保育園



■ 公開保育（5歳児）

研究主題に基づいて公開保育を実施し、子どもの姿を共有しました。

【目指す子どもの姿】

- ・絵本を通して子どもたち一人ひとりがイメージを豊かに膨らませ、感じたことを言葉で伝えたり、相手の思いを受け入れたりして遊ぶことを楽しむ姿。
- ・お話の世界に親しむ中で、友だちとイメージを共有し、必要なものを身近な素材で再現したり、作ったりして表現する姿。

【活動内容】

- ・忍者になって遊ぶ中で、忍者に必要な道具、術、修行が何かを考え、友だちや保育者と伝え合う。
- ・自分や友だちとイメージしたものや感じたものを身近な素材で作ったり、体で表現したりする。

■ 研究協議会

研究協議では、以下の2点について話し合いました。

① 公開保育で見られた子どもの姿

言葉でやりとりし、遊びを楽しむ姿

- ・合言葉を相談しながら決め、友だちと協力して遊びを進める姿
- ・忍者の城の前で言葉を使ってやりとりし、物語を楽しむ姿

表現することを楽しむ姿

- ・手裏剣づくりで形を確かめながら工夫し、自分なりの表現を深める姿
- ・忍者の道具や衣装を作り、イメージを形にして遊びに没入する姿



② 今後の実践の方向性

- ・色々な絵本に触れる環境を整える
- ・絵本・図鑑で経験を補い、理解を深める
- ・物語づくりや劇など、自分の思いを形にする活動へ発展させる
- ・遊びの中で言葉のやりとりを豊かにする

■ 森佐江子氏より指導・助言

今後の保育実践に向けて、子どもたちが絵本を通してイメージを広げる経験に加えて、「本の価値を実感する経験」を重ねていくことが大切であるとして助言をいただきました。また、読書環境を整えるためのヒントとして、瀧薫氏による図書『実践 保育と絵本—乳幼児の心をていねいに育む』（エイデル研究所）に掲載されている「絵本のマトリクス表」を参考にしてみるとよいことも教えていただきました。

発達支援 グループ より

お知らせとお願い

発達支援グループでは、発達の課題のある、またはその傾向がある児童生徒に対して、特性理解と支援方法を保護者の方や学校とともに探り、その取り組みを支援していきます。

発達障害による二次障害で不登校傾向になる子どももいますので、ケースによっては登校支援グループと連携しながら対応させていただきます。



学級への適応が厳しいなあ・・・

困ったときは、教育センターへ

* 電話相談・来室相談

相談対応電話 月曜日～金曜日 8:30～17:15

* 学校訪問

相談内容によっては学校を訪問し、児童生徒の観察や訪問相談も行います。

* 発達検査

学校からの依頼に応じて、発達検査を行います。結果をもとに支援方法を提案します。

申し込み

受付・予約

面接・相談

- ・電話でお申し込みください。対象は、長浜市小中学校・義務教育学校在籍の児童生徒、および保護者、教育者です。

- ・お困りのことや心配ごとをうかがい、相談日時を決めます。
- ・学校への訪問・児童生徒の観察、保護者簿来室等について協議し、相談の進め方を決めます。

- ・お困りのことや心配ごとについて教育相談を行います。
- ・学校と家庭の情報共有を確認し、つながりを大切にしながら進めます。

発達検査を行う際には、発達検査依頼書の提出をお願いします。今年から主訴に「保護者の思い」の欄が入りました。保護者の方とも相談していただき、ご記入ください。